



書評

[評者]

岩田 充永

藤田医科大学教授・救急総合内科

高齢者 ER レジデントマニュアル

増井 伸高 著

●B6変型 頁298 2020年4月

定価：本体3,600円＋税

[ISBN978-4-260-04182-9] 医学書院刊



本当に挑戦的なマニュアルが出版されたものである。

救急が好きな人間は、「18歳バイク事故で、血圧60で……」とホットラインで聞いた瞬間にアドレナリンが放出されるが、「82歳男性、今日はベッドから起きてくる事ができません……」と聞くとどのような反応になるであろうか？

反対に、老年科医の中では、「ERはちょっとねえ～」と救急に対する苦手意識が見え隠れするのが現実であると感じる。

救急医からも老年科医からも敬遠されがちなテーマを正面から扱って、マニュアルにする著者の勇気をまず心から称えたい。マニュアルを執筆するアウトプット作業は、医師にとって本当に身を削る思いである。出版社だってそれなりの購入部数が見込めなければ発売しないだろう。15年前に、「高齢者救急」なんて誰も真剣に考えていなかった分野を自分の専門にしてみたいと思った立場としては、救急医と老年科医の懸け橋となるような本書の出版がうれしくて仕方がない。

高齢者救急マニアは、すぐに手に取って全ページを読んでしまうわけだが、高齢者救急が苦手であっても「1. 高齢者ER診療の基本」「2. せん妄（元気がない、いつもと違う、動けない）」「32. 薬剤評価・ポリファーマシー」「33. 生活環境評価・介護保険」「34. 入院・帰宅の方針決定」だけは熟読してほしい。高齢者救急への処し方が理解できる。

私たちが本書から学ぶべきことの1つは、ERで目の前の高齢者診療を適切に行うことである。しかし、もう1つ学ぶべき大切なことがあると感じる。それは、高齢者救急は小児・成人救急のようにスッキリと正解が1つに決まらない、「症例によって最適解が異なる」ということである。症例に出合うたびに、目の前の高齢者、そのご家族の状況を考えて最適解を考える……なんて高度な技量が必要な医療なのだろう。あらためて反省させられた。

本書を手にとった若手医師には、ぜひ271ページの「力いっぱい悩むこと」を熟読し実践してほしい。本書が救急医と老年科医の懸け橋となることを願ってやまない。